

泉州普及だより

泉州発！ 大阪産(もん)PR で集客力アップ！

「JA 直売所 大阪産(もん)めぐり～泉州の農産物、買いに来て！」を開催

泉州農と緑の総合事務所では、今年度、泉州地域の 3 農協（JA 堺市、JA いずみの、JA 大阪泉州）と協力して、「地産地消の推進」「地域農業の活性化」等を目的に、3 農協連携イベント「JA 直売所大阪産（もん）めぐり」を開催しました。

このイベントは、「大阪産（もん）地産地消推進月間」の 11 月中に、管内の 3 直売所（またきて菜、愛彩ランド、こーたり～な）をめぐってお買い物をされた方に、抽選で府内産米をプレゼントするという内容で、10 月から管内市町や JA 広報誌、府の Web サイト、各直売所等で周知を図ってきました。

実施初日の 11 月 2 日には、府議会議員や各 JA、府関係者等を「こーたり～な」に招き、盛大なオープニングセレモニーを開催しました。主催者を代表して JA 大阪泉州秦組合長がイベントの説明を、各直売所の代表が独自のおすすめイベント等を紹介した後、華々しくテープカットが行われました。また、会場では、こまつな料理（またきて菜）や米粉パン（愛彩ランド）の試食、みかんの詰め放題イベント（こーたり～な）が行われ、一定額以上の購入者へは泉州産たまねぎを使った「それゆけ！大阪ラーメン」もプレゼントされました。

期間中に、各直売所で独自のイベントが開催されたこともあり、3 直売所合計で、11 月の来客者数は約 9 万 6 千人（昨年同月比 3.4%増）、売上は約 1 億 8 千万円（同 7.1%増）となったほか、応募者アンケートからは「初めてこの直売所に来た」という声もあり、一定の成果を上げることができました。



オープニングセレモニーの様子



購買客でにぎわう直売所

終了後に実施した関係者会議では、「今回のイベントが各直売所の PR につながった」、「参加者や応募者数をさらに増やすために、実施期間や応募要件を見直す必要がある」、「他の直売所とも連携する必要がある」といった声もあがり、早くも次年度に向けて前向きな意見が出されました。

総合事務所では、大阪産（もん）を旗印として、今後も JA や市町、直売所と連携して、直売所での地産地消を推進し、地域農業の活性化を目指します。

ふきのシーズンです！

～消費拡大に向けた取組で産地を守る～

大阪府は全国第3位の生産高を誇るふきの産地で、そのほとんどが貝塚市、熊取町、泉佐野市、泉南市で栽培されています。しかし、ふきはあく抜きやすじ取りに手間がかかる等の理由から消費が減り続け、今では生産者はわずか数十名となり、産地存続が危ぶまれています。

そこで、農の普及課では、昨年、ふきの消費拡大を目指して、郷土料理研究家の藤村加代子先生の指導のもと『ふきアラカルト』を発行し、今年の本格的な出荷シーズンに合わせて、直売所を中心に配布する予定です。また、2月頃には、JA 大阪泉州と協力して、消費者を対象とした「ふき料理講習会」を計画中です。他にも、消費拡大に向け、大阪市内でのPR活動等を予定しています。さらに「大阪産（もん）チャレンジ支援事業」を活用し、消費者がふきを利用しやすいように、鮮やかな色や春らしい香りをそのままにした水煮の試作を行っています。今後も農の普及課では、ふきの生産振興・消費拡大の取組みを行ってまいります。



みなさんの食卓でも是非、泉州産のふきを味わってください！

5名の新しい「農の匠」が認定されました！

優れた農業経営を行っていることはもちろん、農業の後継者の育成に積極的で、地域農業のリーダーとして活躍されている農業者を、大阪府知事が「農の匠」として認定しています。現在101名が認定されており、今年度、泉州から新たに5名の方が農の匠に認定されました。今後とも大阪農業の発展のためによりしくお願いします。

あんの しょうじ 安野 章治さん	堺市	こまつな、しゅんぎく、みずな
たにふじ えいち 谷藤 栄一さん	岸和田市	いちじく、軟弱野菜、トマト
きたの きよはる 北野 清治さん	貝塚市	水なす、たまねぎ、しゅんぎく
たにがみ こうしろう 谷上 幸治郎さん	貝塚市	みかん、たけのこ、水稻
の で よしゆき 野出 良之さん	泉佐野市	キャベツ、水なす、水稻

大阪産（もん）五つの星大賞

大阪産（もん）の普及やイメージ向上に尽くした優れた活動を「五つの星大賞」として表彰しています。この度、泉州から「(有) いずみの里」と「長左工門射手矢農園」が選ばれました。また、PR大使のハイヒールモモコさんが選ぶ、PR大使賞に「包近桃出荷組合」、優良賞に「(有) しものファーム」が選ばれました。おめでとうございます。

